

# 業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2020.3.5

No.626

## 2020春闘 収入動向

本部は、2月26日、交渉を行いました。以下、報告します。

まず、会社から営業成績（2020年1月）を説明。

### 営業成績（2020年1月）

（単位：百万円、千トン、％）

扱別	種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年		
					増減	比	増減	比	
月計	収入	コンテナ	8,872	9,004	8,808	-132	98.5%	64	100.7%
		車扱	1,300	1,336	1,353	-36	97.3%	-53	96.1%
		計	10,171	10,340	10,161	-169	98.4%	10	100.1%
	輸送量	コンテナ	1,584	1,618	1,641	-34	97.9%	-57	96.5%
		車扱	838	808	920	30	103.8%	-82	91.1%
		計	2,423	2,426	2,561	-3	99.9%	-138	94.6%
年度累計	収入	コンテナ	95,664	95,771	85,324	-107	99.9%	10,340	112.1%
		車扱	11,219	11,159	10,424	60	100.5%	795	107.6%
		計	106,883	106,930	95,748	-47	100.0%	11,135	111.6%
	輸送量	コンテナ	17,239	17,271	16,538	-32	99.8%	701	104.2%
		車扱	7,200	7,111	7,346	89	101.3%	-146	98.0%
		計	24,439	24,382	23,884	57	100.2%	555	102.3%

### 1. 収入動向

コンテナは、農産品・青果物が北海道産玉葱および九州産生野菜が順調な発送となったほか、食料工業品は北海道の砂糖、新潟の菓子類が好調に推移した。一方、紙・パルプは各社販売不振による出荷調整を実施したことから大幅な減送となった。また米中貿易摩擦、中国経済減速の影響等により不振が続く化学工業品、化学薬品、消費税増税後に販売不振が続く家電・情報機器が計画を下回った。コンテナ全体では対計画△132百万円となった。

車扱は、石油が暖冬に伴って灯油を中心に需要が減少したため、低調な荷動きとなった。車扱全体では対計画△36百万円となった。

コンテナ・車扱合計では、対計画△169百万円となった。

### 対計画△169百万円（98,4%）

#### ・コンテナ

農産品・青果物は北海道産玉葱および九州産生野菜が順調な発送となったことから、対計画+48百万円となったほか、食料工業品は北海道の砂糖、新潟の菓子類が好調な荷動きと

---

なり+28百万円、自動車部品は一部顧客の九州地区での増産に伴って増送となり、+4百万円となった。一方、紙・パルプは需要減少に伴って各社販売不振となったため△120百万円、米中貿易摩擦、中国経済の減速等により低調な荷動きが続く化学工業品が△7百万円、化学薬品が△17百万円、家電・情報機器は生産拠点の変更・他モード転移等により△10百万円となった。その結果、コンテナ全体では△132百万円（98,5%）となった。

・車扱

石油は1月の気温が高く推移したことから灯油の需要が減少し、低調な荷動きとなった。車扱全体では対計画△36百万円（97,3%）となった。

**対前年+10百万円（100,1%）**

・コンテナ

農産品・青果物は北海道産玉葱および九州産生野菜の好調な発送に伴って、対前年+63百万円となったほか、自動車部品は東海・九州地区間での新規輸送が順調に推移し+62百万円となった。また食料工業品は北海道の砂糖、新潟の菓子類が増送となったことから+57百万円、積合せ貨物は関西、東北発を中心に鉄道シフトが進み+25百万円となった。一方、紙・パルプは需要減少に伴って各社とも販売不振が続いており△139百万円、エコ関連物資は中央新幹線建設発生土輸送の減により△11百万円、家電・情報機器は増税後販売不振が続いているため△6百万円となり、前年を下回った。輸送量は落ちたものの、運賃改定の効果もあり、コンテナ全体では+64百万円（100,7%）となった。

・車扱

石油が暖冬に伴って気温が高く推移したため、灯油を中心に低調な荷動きとなった。その結果、車扱全体では△53百万円（96,1%）となった。

**2. 輸送量動向**

コンテナは、自動車部品が一部顧客の九州地区での増産に伴い東海・九州間の輸送が好調となったほか、農産品・青果物は北海道地区からの玉葱の発送が順調に推移した。積合せ貨物は東北、関西地区発での増送により前年を上回った。一方、紙・パルプは販売不振に伴って全国的に在庫過剰となっており大幅な減送となった。また化学工業品、化学薬品は米中貿易摩擦や中国経済の減速等に伴って輸出関連を中心に出荷が奮わなかった。食料工業品では現地生産化が進む清涼飲料水の荷動きが低調となった。家電・情報機器では消費税増税後から販売不振が続いており、前年を下回った。その結果、コンテナ全体では前年比96,5%となった。

車扱は、暖冬に伴って気温が高く推移したため、灯油をはじめとする石油の輸送が低調となり、大幅に前年を下回った。車扱全体では前年比91,1%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比94.6%となった。

(単位:千トン、%)

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	147	146	1	101.2%
	化学工業品	141	146	-5	96.3%
	化学薬品	116	121	-5	95.6%
	食料工業品	223	227	-4	98.4%
	紙・パルプ	198	236	-38	83.9%
	他工業品	120	120	0	100.3%
	積合せ貨物	217	216	1	100.2%
	自動車部品	74	68	6	109.5%
	家電・情報機器	28	32	-4	88.3%
	エコ関連物資	52	55	-3	94.9%
	その他	268	275	-7	97.5%
	コンテナ計	1,584	1,641	-57	96.5%
車扱	石油	569	648	-79	87.8%
	セメント・石灰石	130	131	-1	98.7%
	車両	82	88	-6	94.0%
	その他	57	53	4	108.0%
	車扱計	838	920	-82	91.1%
合計		2,423	2,561	-138	94.6%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)

組合・台風等の自然災害・消費税10%引き上げ・暖冬等、様々な影響により下期の営業収入が大きく落ち込んだと思うが、一番の原因は何と考えているか。

会社・車扱に関しては、暖冬に伴って灯油を中心に石油需要が減少したためである。

コンテナについては、様々な要因が上げられるが、主に言えば、製紙関連の販売不振や米中貿易摩擦。中国経済減速の影響を受けている化学薬品・化学工業品の販売不振と分析している。また、他輸送モードも荷量が下がっており、物の動きが鈍いと認識している。

組合・新型コロナウイルスによる肺炎の猛威が世界経済に深刻な影響を落とし、中国経済は大きく落ち込んでおり、日本においては、中国人の訪日消費や観光特需が大きく落ち込み、産業においても中国からの部品調達が滞り、自動車関連を筆頭に徐々に影響を及ぼし始め、景気への影響は東日本大震災に匹敵するのではという声もある。今後JR貨物にも大きく影響を及ぼすと思われるが、どのように考えているのか。

会社・一部、影響は出てきているため、今後の動向を注視していきたい。

組合・竣工したレールゲートWESTだが、新規顧客の獲得状況はどうか。

会社・テナントとして入居いただく事業者様と定期的な勉強会を実施しており、新たな輸送を開始する予定である。

組合・2020年3月のダイヤ改正では、松山貨物駅移転リニューアル、需要が高い区間の輸送力増強、大型コンテナネットワークの拡充と、目玉商品が無いが、この窮地を開き出来るような良い話はあるか。

---

会社・大型案件は現在のところないが、J R貨物として、お客様へ提案輸送を実施し、増送につなげるよう日々、営業活動を地道に行っていきたい。

組合・最後に、2019年度通期見通しを（事業計画97億円→中間決算で2億円下方修正→1月改定計画68億円）下方修正したが、68億円を死守するよう鋭意努力された。私達は、安全安定輸送に努めていく。

会社・了解した。

#### 「総務部」

組合・会社の状況は「厳しい」と理解するが、厳しいの一点張りで物事を進めていくだけでは、無能な経営陣と言わざるを得ない。このような窮地を打開し、将来に向け安心して働ける職場づくりを展開してくのが優秀な経営陣である。現場では日々、安全安定輸送に努めている。来週、「会社の考え」を示されるが、誠意ある回答を強く求める。

会社・昨年発生した台風災害をはじめ、皆様の多大なご尽力により、お客様の要望に最大限応えてきたことに感謝申し上げます。状況は厳しいが、会社としても様々な施策を精一杯取り組んで行く。貴組合の主張を受け止め、社内で再度議論し、次回「会社の考え」を伝えていきたい。

組合・3年連続ベア実施の期待は大きい。誠意ある回答をお願いしたい。

会社・貴労組の主張は承った。

以 上

---